

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 23 年度

事業所番号	2771501083		
法人名	医療法人 浩治会		
事業所名	グループホームゆめの里		
所在地	大阪府大阪市東成区大今里西2丁目17-16		
自己評価作成日	平成 23年 2月 17日	評価結果市町村受理日	平成 23年 6月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人ひとりが、その人らしく生きがいをもって生活を送っていただけるよう日々取り組んでいます。利用者様の尊厳を守り、その人の出来ることを活かせるケアを職員全員で考え支援させていただいています。日常生活では、利用者様の要望で午前・午後とも出来る限り外出する機会をつくり、馴染みの商店で買い物、地域行事への参加など地域の方との関わりを大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2791500040&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2791500040&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 4月 26日		

医療法人浩治会が運営する2ユニットのグループホームです。7階建ての1階にデイケア、2～5階に老人保健施設を併設しており、6階がグループホームとなっています。地下鉄から徒歩1分のところに立地し、家族友人が訪問しやすくなっています。周辺には区民センターや商店街、公園、病院や公共施設もあり、利用しています。ホーム内に仮設のバス停を作り、待ち合い椅子を用意して1日4便、外出の機会を作って利用者に喜ばれています。また四季折々に遠出をし、大阪城や大きな公園に出かけています。「おんりー・わん」という季刊誌を発行し、利用者の暮らしぶりや職員インタビューなど多彩に掲載して、ホームや施設での生活を紹介しています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「1. 誰もがありのままに、その人らしく暮らすことができる施設にします。2. 家庭と変わらない生活をする事ができる施設にします。3. 安心して、楽しく暮らしていただける生活をつくれます。4. 人間としての尊厳を守るケアを行います。」を基本方針として職員みんなで共有し実践しています。	「1. 誰もがありのままに、その人らしく暮らすことができる施設にします。2. 家庭と変わらない生活をする事ができる施設にします。3. 安心して、楽しく暮らしていただける生活をつくれます。4. 人間としての尊厳を守るケアを行います」を理念として、玄関、廊下、事務室に掲示して、職員は常に理念を意識して仕事をしています。また、施設の方針として地域に貢献することを掲げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	馴染みの商店で買い物し、商店の方と会話して帰る。利用者様が今まで行ってきたことを地域の方の理解もあり継続することが出来ている。 又、地域行事（盆踊り、ふれあい喫茶など）への参加も行っています。	食材の買い出しに近くの商店街へ出かけて馴染みの関係を築き、ふれあい喫茶へ出かけて地域の方と会話を楽しんでいます。体調の良い日は職員と共に近くの公園の掃除ボランティアを行い、町会長たちから喜ばれています。また、運営推進会議の委員から情報を得て、近隣の方に人形作りを教えてもらったり、コーラスやバイオリンの演奏に訪問してもらったりするなど交流を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	いつも散歩で出かけている公園の掃除(ボランティア活動)を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員、民生委員、利用者家族、管理者、利用者に参加していただき、2ヶ月毎に開催しています。会議では、運営状況の報告、活動方針、生活の様子、地域活動、行事の報告や話し合いを行い、サービス向上に活かしています。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員、民生委員、町会長、利用者家族、管理者、利用者の参加を得て、2カ月に1回開催しています。その際、介護教室を催してほしいとの要望があり、1回目は認知症について学んでいます。また、委員から情報を得て地域の催しに参加しています。盆踊り大会には席を用意してもらい、利用者家族はゆっくり見学できました。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡会や研修への参加、利用状況、運営内容等全ての情報提供を行うほか、市からの通知や指導に基づき連携体制の確保に努めています。	区の地域密着型事業者連絡会に参加しています。また、介護保険更新時には区役所を訪問し、質問事項などは電話で気兼ねなく問い合わせのできる関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ユニット玄関は施錠していないが、エレベーターは電子ロックとなっている。施錠の閉塞感を和らげるために、午前・午後に散歩や買い物に出かけたり、出来る限り好きな時に外出できるように配慮しています。</p>	<p>身体拘束をしないケアを目指し、指針を作成しています。指針は事業所内に掲示し、職員に周知しています。身体拘束については、委員会を開いて事例を話し合い、「人権啓発ビデオ」で研修しています。ユニット玄関は施錠していませんが、エレベーターは電子ロックとなっています。電子ロックを開錠する暗証番号表示については、家族や職員と話し合い、検討しています。利用者は午前に3回、午後に1回外出の機会があり、また希望をすれば、いつでも職員が付き添って外出できる状況です。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員全員で定期的に虐待のDVDを見たり、どのような行為が虐待に当たるのかを話し合い、人権意識を高めています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加して活用できるよう支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書により、説明を行い、不安や疑問点を尋ね、ご理解・納得をしていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時に生活状況を伝え、意見・要望をいただくようにしています。運営推進会議でも意見をいただき、運営に反映するよう取り組んでいます。又、施設内に意見箱も設置しています。	玄関にご意見箱を置いて気兼ねなく意見を入れてもらえるようにしています。面会時に直接家族から話を聞いています。意見の中には「避難訓練を実施しているが夜間が心配」「普段の生活を知りたい」等があり、要望に応えるべく日常生活を撮影し、プロジェクターで見せようこともあります。また、家族には年4回の季刊誌の他に、生活情報の報告や行事予定を毎月郵送しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、日頃の意見交換で職員の意見、提案を聞き、業務に反映するようになっています。	月1回全体会議を開いて意見を聞く機会を設けています。管理者とは質問したり話し合いを行い、例えば食材の買い物について、サラダ油やだし、みその購入についてどのメーカーが良いか職員にアンケートを取ったり、休憩時間の取り方について検討したりしています。また、年2回の人事考課で職員と面接を行います。法人内で勉強会を開き、資格取得の支援もしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、評価、把握の結果に基づき、職員の能力開発及び育成、職務改善及び処遇の適正化を図り、向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での内部研修や各部署の代表職員で構成された委員会で勉強会を行っています。又、外部研修にも参加し、参加してきた職員は法人内の職員に研修報告会で発表しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東成区内の事業所の代表者と定期的に交流会を行い、情報交換、サービス向上のための話し合いを行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に利用者様、家族様との面談を行い、不安や要望を聞いています。その後も定期的に要望を聞きながら、ケアプランの作成につなげています。又、常に接する中で不安や要望について耳を傾けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面会時に利用者様の生活状況の報告をする際に、不安な点、要望について耳を傾けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族様の要望を聴き、カンファレンスにより支援の方法を考え、ケアプランを作成しサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の得意とする分野を活かせるよう役割を持っていただき、一緒に暮らすという意識を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様も一緒に外出されたり、外食に行かれたりします。又、地域行事にも家族様に参加していただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの店との関係が途切れないように家族様と協力して出かけています。又、ホームへ尋ねて来られる友人、電話をかけてくる友人もいます。	利用者が昔から通っていた馴染みの散髪屋や美容院を利用したり、知り合いの八百屋を訪れたりしています。墓参りに連れて行って欲しいと要望があり、家族や職員と一緒に訪ねて喜ばれたこともあります。「この店のこの味を」と食事に出かけることもあります。友人がホームを訪れたり、家族や親戚の方から電話がかかって来たりする等、交流を図っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で会話しゆっくり過ごしていただけるよう配慮しています。又、なかなか関わりを持たない方には、職員が橋渡しをしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の様子を伺ったり、相談等の関係を継続しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行事や食事など利用者様の要望を取り入れてたり、個別で外出したり、日常生活での接する中で把握するよう努めています。要望の少ない方については家族様に伺うようにしています。	利用者ごとの生活歴や望み、思い出話を日常の会話から情報を集め「宝物ノート」に書き留めています。外出の好きな利用者の気持ちを受け止め、個別に外出したり、油絵を利用者と職員が共同で描くこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接、入居後も生活歴の把握に努めています。定期的にケアプランの見直しを行いながら家族様、職員間で情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランのサービス内容の把握、記録表、熱計表、申し送りノートにより一人ひとりの現状を職員全員で把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に利用者様の要望、心身の状況を把握し、医師や家族様の意向も確認した上で介護計画を作成しています。又、モニタリングを行う中で、新たな要望や意見を反映していくようにしています。	毎月、担当者がサービス援助内容を職員と話し合いモニタリングして、総合評価をケアマネジャーが行います。介護計画は3か月毎に見直し、包括的自立支援プログラムにより課題を見付け、家族や職員の意見も反映させた介護計画を作成するように心掛けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員でサービス経過観察を記録しています。その記録と利用者様、家族様の要望をもとにして3ヶ月毎に介護計画を見直しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様が行けない場合の病院受診、必要物品の購入など、その時々に応じて対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察から交通指導にきていただいたり、消防署に消防訓練に立ち会っていただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様や本人様の希望により、入居前から行かれている病院に定期受診しておられる方もおり、協力病院とも連携し緊急時の体制を整えています。又、訪問歯科を週1回行っており、義歯の調整や口腔ケアを行っています。	入居前からかかりつけの医療機関への定期受診は、家族が主に行い、臨時対応等で職員が付き添う事もあります。近隣にある提携病院と緊急時の協力体制を整え、希望があればかかりつけ医に変更することもできます。訪問歯科も週1回訪れ、口腔ケアも積極的に行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今後、訪問看護師との医療連携を行っていく予定です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された時には、病院側との情報交換、医師との相談を行い関係づくりに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、対象者はいなく看取りは実施していません。今後は、医療連携の体制を作りながら、家族様の希望と合わせて看取りの準備を進めていく予定です。	現在、対象者がいないため看取りは実施していませんが、重度化に向けた指針や職員の意識付け対応力を向上させる必要性は感じています。その為、急変時等の対応訓練を定期的に行っています。今後は更に医療連携も充実させ、家族の希望も聞き取り、看取りの準備を進めていく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会にて、急変時や事故発生時の対応訓練を定期的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えるマニュアルを作成しており、年2回消防署の立会いで避難訓練を実施しています。非常時・災害時の食料品と水を備えています。	災害マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行い、そのうち1回は消防署の協力を得て実施しています。スプリンクラーも設置しています。非常口の扉はいつでも開けられるようになっています。また、水や食糧の備蓄についても確保していますが、水の準備量が少ない状況です。火災通報専用電話を設置しています。近隣住民の協力については検討中です。	災害対策として備蓄はしていますが、水は一人1日3リットルを目安に、3日分程度、準備されることが望まれます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間としての尊厳を守るケア、利用者様と接する態度に十分気をつけて対応しています。個人情報の取り扱いは書面にて周知し署名・押印をもらっています。	理念にも掲げて尊厳とプライバシーを大切にしています。施設としてのプライバシー確保について廊下に掲示し、職員や家族に伝えるようにしています。個人情報保護の取り扱いについては書面で署名をもらっています。また、年間計画に接遇の研修を取り入れ、重点課題にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたい物、外出、レク、入浴等全てにおいて利用者様の自己決定を支援しています。買い物に出かけ、食べ物を選んでいただくこと、衣類の選択、外出の行き先等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の流れを細かく決めず、利用者様の希望やペースに合わせるよう臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前から行きつけの美容院に行かれる方、衣類も利用者様と一緒に好きな柄を選んでもらっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食の準備・片付けを利用者様と一緒にしています。月に何度か利用者様から食べたい物を聞きながらメニューを作成しています。又、利用者様の要望で寿司の出前をとることもあります。	朝夕は1階にある厨房で調理して運んでもらっています。昼食は各ユニットで職員が調理しています。利用者はお米研ぎ、人参やジャガイモの皮むき、盛り付けを一緒にしています。食材については、近隣の商店街やスーパーで買っています。重いものは配達してもらっています。おやつは毎日利用者の好みを聞きながら一緒に買いに行き、たい焼きやロールケーキ、フルーツヨーグルト等食べています。また、月1回は出前のお寿司を取って喜ばれています。職員は自然な流れで介助しながら一緒に会話して、同じ食事を摂っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	栄養士より食事バランス、カロリーを計 算してもらっています。食事摂取量、水 分摂取量、体重の変化も記録にとつて います。又、好き嫌いやアレルギーの ある方には、代替りの副食を用意した り、食事形態も利用者様が食べやすい ように刻んだりトロミをつけたりして提 供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に実施しています。 上手く磨けない方には職員が一部介 助を行ない口腔内の清潔保持に努め ています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	排泄の失敗がある方には、定時の声 かけによりトイレ誘導を行っています。 オムツ着用やトイレ誘導の必要な方 には、排泄記録をとり排泄パターンの把 握に努めています。又、トイレの場所 が分かりやすいように標示を工夫して います。	排泄記録を取り、それぞれのパター ンを把握して支援しています。定時の排 泄支援の他に、便秘気味の方は水分 の摂取に努め、野菜を食べよう勧め ています。散歩への誘導や体操なども 実施しています。また、トイレの場所も 分かりやすく大きな表示にしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録、水分摂取量を記録し1日の 水分の目安にし、便秘気味の方には、 適度な運動行ったり、食後にトイレ誘 導を行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後にゆっくり入っていただいています。好きな時間帯、好きな日の希望があれば、出来る限り対応するようにしています。又、利用者様に楽しんでいただけるよう菖蒲湯やゆず湯も行っています。	利用者は午後に入浴してもらいます。ゆったりと大きめの浴槽で、一人ひとりゆっくりと目標に支援しています。好きな時間に入浴の希望があれば対応しています。また菖蒲湯やゆず湯等で、季節感を味わってもらっています。入浴を好まない方には、次の日に誘ったり、声かけする職員を交代したりするなどの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に利用者様の体調や様子を気にかけて、静養していただけるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬、外用薬をケース記録や薬確認表にまとめて常に確認しています。又、薬の申し送りノートを作っており、薬の変更時は職員間で共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者様が意欲的な生活を送ることができるよう、常に利用者様の興味があることに対して支援するよう心がけています。個別の趣味、外出等利用者様の希望に対して出来る限り支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、午前、午後とも外出しています。外出先は近隣の公園、スーパーや商店街への買い物、又、個別に行きたい所へ行けるよう家族様とも協力の上、支援しています。	お天気の良い日には散歩に出かけています。公園でハトに餌やりをしたり、花を眺めたりしています。ホームの中央廊下にバス停を設けて待合室として椅子を用意し、外出したい方が待っています。午前中に3便、午後に1便があり、外出して気分転換を図る機会があります。ホーム前にある区民センターの図書館で紙芝居を借りてみんなで楽しんだり、月1回ふれあい喫茶に出かけて近隣の方との会話を楽しんだりしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望する利用者様の小遣いは事務所の金庫に保管してあり、買い物時に財布を利用者様に手渡し、できる方にはお金の支払いをしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった場合には電話をかけていただいています。手紙やハガキの返事を書けない方には職員が代筆をして一緒にポストに入れます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には手芸作品、スタッフの顔写真、利用者様で生けた生け花を飾っています。廊下には行事の写真、リビングには新聞、雑誌、手芸作品を飾っています。又、ベランダには植物を育てています。	ホーム内はすべてバリアフリーとなっています。玄関のエレベーターホールには、職員の紹介として写真と共に趣味や得意なことが掲示され、利用者家族の話題作りに繋がっています。また、壁には利用者が生けた花や、油絵、行事の写真などが飾られています。リビングには新聞、雑誌が置かれ自由に読むことができます。トイレ、浴室もゆったりとした空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下には、椅子が置いてあり、利用者様同士で会話したり、ゆっくり過ごしていただけるよう配置しています。リビングではソファを置き、テレビを見たり、雑誌を見たりゆっくり過ごしていただけるような配置にしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッド、タンス、テレビ、小灯台、椅子が備え付けられています。利用者の使い慣れた家具や馴染みの品物を持ち込んでいただき、使いやすいように配置しています。	各居室の入り口は引き戸となっており、洗面所、ベッド、タンス、テレビ、椅子が備え付けられています。利用者は家具や仏壇を持ち込み、家族の写真を飾られている方、趣味の油絵や制作された人形、動物のぬいぐるみを飾られている方もいます。各居室は明るくゆったりとした広さで、利用者は居心地良く過ごしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の利用者様が使う扉は引き戸を使っています。廊下は全て手すりを取り付けています。玄関口は段差がなく、歩いて疲れた時にはすぐに座れるように所々に椅子を配置しています。		